ニュースのことば WORD OF NEWS

KEY WORD

統合医療

最近、西洋医学と補完代替医療（鍼灸、漢方、アロマセラピー、ヨガ、各種マッサージなど）を1つの枠組みとして捉え、様々な方法から患者にとって望ましいものを選択するという「統合医療」が注目されています（図表）。これは、病気に対する治療のみならず、予防や健康増進を目的とした医療も含んでいるため、現代薬の副作用といった西洋医学が抱える課題や、高齢化に伴う医療費の増加などに対する有効な解決策として期待されています。さらに、自らに係わる医療を積極的に選びたいという患者側の意識が高まっていることも、注目されている要因となっています。

統合医療の先進国である米国の取り組みをみると、補完代替医療の科学的研究と評価を行う目的で、国立補完代替医療センターが運営されているほか、米医科大学協会に加盟する大学の3分の2以上で補完代替医療の科目を履修できるなど、教育環境も整えられています。こうしたもと、2007年には国民の約4割が補完代替医療を受けており、統合医療が広く普及している状況が確認できます。

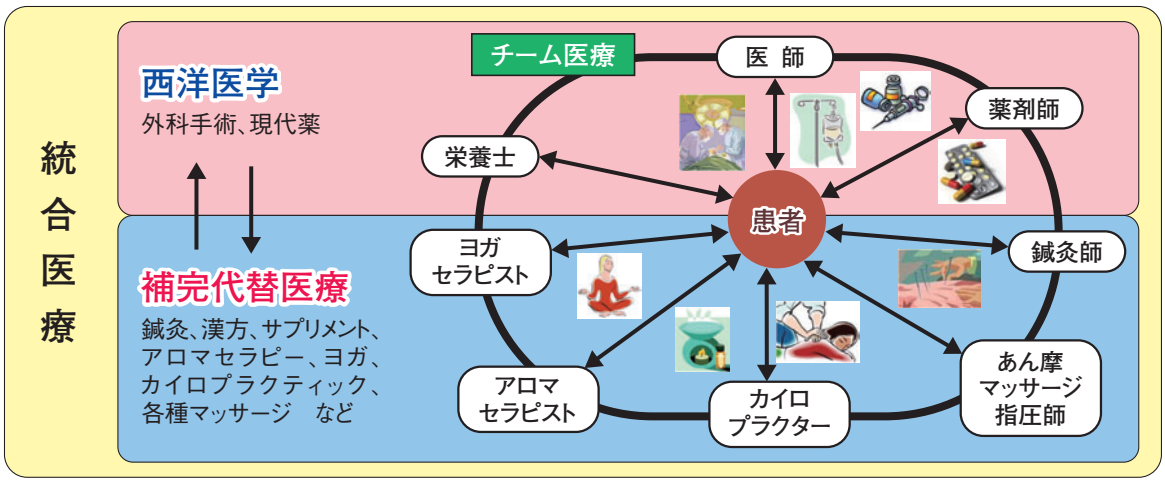
その一方、わが国では、健康保険が適用される漢方などを除き、補完代替医療の多くが社会的に浸透しておらず、治療に導入する医師も少ないのが現状です。この背景には、①科学的根拠を示すデータが乏しいこと、②大学医学部などでの教育が不十分であること、③健康保険が適用されないこと、などがあり、これらの課題を解決していくことが統合医療の普及に不可欠であると言えます。

さらに、多様な手段を用いる統合医療では、各分野の専門家が連携を取り、患者を中心とした「チーム医療」を行うことが重要です（前掲図表）。すなわち、医師など単独では困難な統合医療の専門的指導が可能となるほか、西洋医学従事者・補完代替医療従事者・患者が情報を共有し、客観性を持った意見を交換することで、個々の患者に対する適切な医療方法を判断することができます。

こうしたなか、2010年の施政方針演説で鳩山首相（当時）が統合医療について言及し、厚生労働省が2012年3月に設置した「『統合医療』のあり方に関する検討会」において、専門家による検討が現在なされています。この検討会では、安全性・有効性の確立など、統合医療を普及させるための方策が議論されており、今後こうした行政の取り組みのもと、統合医療が利用しやすい環境が整えば、健康長寿社会の実現に加え、新しい医療・福祉分野の産業の発展も期待されます。

三重銀総研 インターンシップ研修生
三重大学大学院地域イノベーション学研究科　喜多 智美

図表　統合医療の概念図



（資料）厚生労働省「統合医療プロジェクトチーム」会合資料等をもとに三重銀総研作成

本レポートを作成するにあたって、鈴鹿医療科学大学鍼灸学部の佐々木和郎教授、名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学の伊藤京子医師には取材等でご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

Miegin Institute of Research.Ltd All rights reserved.